

滋賀と京都の無形民俗文化財 受け継がれる伝統芸能の舞台!



「伊達娘恋緋鹿子」より



「木の本地蔵」より

富田人形



ゑんま堂狂言

～継がれる伝統芸能～

2024年

10月6日 日

長浜文化芸術会館 大ホール

13:00開場 13:30開演 (15:30終演予定)

演目

人形浄瑠璃 富田人形

3人で1体を操る人形遣い、三味線のリズム、
太夫の語りが一つになり演じられる

ことぶききさん ば そろ

※ 寿式三番叟 - 鈴の段 -

きいち ほう がん さんりやくのまき

※ 鬼一法眼三略巻 - 五条橋の段 -

だ てむすめ こいのひ がのこ

※ 伊達娘恋緋鹿子 - お七火の見櫓の段 -

演目

千本ゑんま堂大念佛狂言

「京の三大念佛狂言」の一つ
ほとんどの演目にセリフがあり
身近に狂言の魅力が感じられる

に にんだい みょう

※ 二人大名

つちぐも

※ 土蜘蛛



「鬼一法眼三略巻」より



「二人大名」より

入場料 / 一般 1,500円 (税込/全席自由) 高校生以下 無料

【チケット発売場所】 長浜文化芸術会館、浅井文化ホール、木之本スティックホール
ローソンチケット (Lコード:51736)、楽天チケット、teket(電子チケット)



teket

7/13(土)
発売開始

出演 / 富田人形共遊団、千本ゑんま堂大念佛狂言保存会



人形浄瑠璃 富田人形

天保6年(1835)興行の途中の阿波(徳島)の人形芝居の一座が富田で雪に降り込められ逗留を余儀なくされました。

帰国の旅費を作るために人形等を置いていき、その後、これを引き取りに来なかったのが、芝居好きの地域の青年が人形を遣ったことが富田人形のはじめといわれています。

明治7年(1874)には滋賀県の興行の許可を受け独立、昭和32年(1957)に滋賀県無形民俗文化財に選択されました。

昭和54年(1979)に新生「富田人形共遊団」として再発足、北富田に居住する人を中心に市内外の人形を愛好するメンバーにより、人形遣い、三味線弾き、語りの太夫の三業の稽古を日々行い、人形浄瑠璃の保存伝承に励むと共に、地元の小中学生に操作を教え、海外からの学生を迎えてサマープログラム等として後継者の育成、文化の国際交流にも努めています。

演目

ことぶききさんば そう ★ 寿式三番叟 — 鈴の段 —



二体の三番叟の人形が連れ舞い、鶴の舞い、鶴亀の舞いがあり、鈴を持って舞台四方に種蒔きのしぐさがあったり、豊年、延命長寿を祈願するお祝いの歌舞です。

曲に合わせてだんだん舞いも激しくなり、やがて一体が疲れて休もうとすると、引きとどめて「いっしょに踊ろう」と励まし、最後まで舞い納めるユーモアあふれる演目です。

曲のトウトウタラリ…というのはチベット語で五穀豊穰、悪魔退治の意味があり、縁起が良いものとして多くの場で上演しています。

きいち ほうがん さんりやくのみき ★ 鬼一法眼三略巻 — 五条橋の段 —

夜な夜な通行人を襲う曲物が出るという噂の京都五条大橋が舞台です。その曲物を捕えようと、物々しい武器を携えた、比叡山の西塔で修行する荒法師武蔵坊弁慶が現れます。

橋の欄干に佇んでいた優美な少年が大柄な弁慶に争いを仕掛けます。弁慶と牛若丸(源義経)の出会いと源氏再興の発端の物語です。弁慶と牛若丸との運命的な出会いを勇壮、ユーモラスに、義太夫節の独特の音色にのって人形が軽妙に立ち回ります。

だてむすめ こいひのひ がのこ ★ 伊達娘恋緋鹿子 — お七火の見櫓の段 —

「八百屋お七」として知られる演目。安永2年(1773)、大崎北堀江座初演。菅専助、松田和吉らの合作による八段続きの世話物。今日では、この6段目だけが残り、それも段末の櫓の部分だけを上演する機会が富田人形でも多くなっています。

衣装を肌脱ぎにし、髪を振り乱して火の見櫓に登る(お七)の様が見どころ。娘心の一途さが凄惨でもあり、美しくもあります。

千本ゑんま堂大念佛狂言

京都市登録無形民俗文化財に登録されている民族伝統芸能。千本ゑんま堂引接寺境内で毎年5月(1日~4日)に本公演が行われる大念佛狂言。

寛仁年間(1017~1020)、引接寺開祖の定覚上人が創始し、鎌倉時代に如輪上人が再興したと伝わる。

京都の三大念佛狂言は、面を着けて演じるのが特徴です。そのひとつ「千本ゑんま堂狂言」は、他の「壬生狂言」「嵯峨狂言」が無言劇であるのに対し、唯一セリフがあるのが特徴で、老若男女問わずどなたでも楽しんで頂けるける芸能です。

やわらかもん演目「二人大名」では大いに笑い、かたもん演目「土蜘蛛」では殺陣の迫力をご堪能下さい。

演目

に になだい みょう ★ 二人大名

【大名にイイイヤながら供にされ、町人刀を持って逆襲】

大名の右内と左内と一緒に清水寺へ参詣に出かけます。お供の家来を連れてこなかった二人は、歩くうちだんだん太刀が重くなってきます。そこで通りすがりの町人を捕まえ、無理やりお供にして、太刀を持たせます。

この町人、はじめは二人の言うままに従っていましたが、やがて持たされた太刀を使って逆に二人の大名を脅し、着物をはぎ取り、動物の真似をさせたり、馬子唄をうたわせたりと、仕返しを始めてが…

右内：嶋 泰智 | 町人：宮田 勝行
左内：迫間 悟空 | 後見：梅原 勝治

つちぐも ★ 土蜘蛛

【頼光主従の土蜘蛛退治】

病に伏せる主君・源頼光(みなもとのらいこう)を、家来の渡辺綱(わたなべのつな)・平井保昌(ひらいほうしょう)が見舞います。日に日に衰弱して行く頼光の病気は、実は土蜘蛛の魔力によるものだったのです。

綱、保昌が下がったあと、僧に身を変えた土蜘蛛が現われ頼光に襲いかかります。頼光は名刀「膝丸」で蜘蛛と戦いますが、もう少しのところできり逃がしてしまいます。

騒ぎを聞き、駆けつけた綱、保昌の二人は、床に落ちた蜘蛛の血をたどって土蜘蛛を見つけ出し、勇敢に戦います。



頼光：戸田 義雄
綱：小島 偉生
保昌：嶋 秀人
太刀持：宮田 優楽
僧：堀切 義郎
蜘蛛：戸田 大地
後見：梅原 勝治
鉦太鼓：嶋 民子
笛：戸田 ころこ、迫間 智恵
岡本 佳子、宮田 美佐

長浜文化芸術会館

〒526-0066 滋賀県長浜市大島町37番地
TEL 0749-63-7400 FAX 0749-63-7401
<https://nagahama-bunspo-hall.com/>

アクセス

JR北陸本線「長浜駅」から徒歩約10分
北陸自動車道「長浜IC」から約15分

